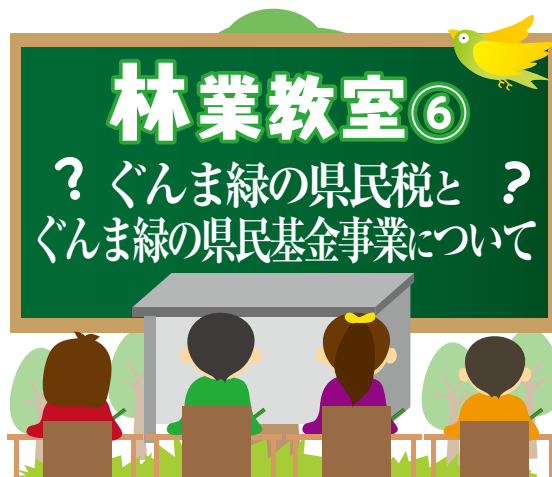




水を育み、災害に強い森林づくり

群馬県では、森林の多面的な機能を守り、次世代へ引き継いでいくために「ぐんま緑の県民税」が導入されています。税額は均等割で一人年額七〇〇円。県民が広く負担しているこの税金は、「ぐんま緑の県民基金」に積み立てられ、森林の整備や保全活動に活用されています。



森林整備や里山保全、竹林対策も

具体的には、水源地域や森林経営が成り立たないような場所にある人工林では、主に間伐等の森林整備を行い、下草等の下層植生を回復させ、災害防止や水資源の保全に貢献しています。また、市町村が主体となる提案型事業では、里山の再生や近年問題になっている竹林の伐採・整備に力を入れています。これらは、事業後に地域団体が維持管理を行うことが条件になっています。

森林の大切さを学ぶ取組も

さらに、森林環境教育やボランティア活動の支援など、県民が森と触れ合い、森林の大切さを学ぶ取組にも活用されています。

これらは、県民の皆さんの協力によって支えられており、群馬の豊かな森林を未来につなぐ大切な一歩になっています。事業実施の際には、組合から皆さんにお声がけをさせていただきます。ご協力くださいますようお願いいたします。

高崎に春の訪れを告げ400年
写真提供：高崎市教育委員会

連載

烏川流域の巨樹・巨木 Vol.6

高崎公園のハクモクレン

高崎のまちの変遷を400年見守る巨樹

巨樹・巨木は、その地域の歴史とともに歩み、文化を育んできた地域の宝です。組合の管内にも多くの巨樹・巨木があります。管内の木々を皆さんに紹介します。

高崎市役所南側に「サクラの名所」高崎公園があります。この公園の西側に根を下ろすハクモクレンは、春には純白の花を咲かせ、人々を魅了します。このハクモクレンが植えられたのは、一六一九年。当時の高崎藩主が「良善寺」の建立に合わせ、その境内に植えたものと伝えられています。樹高は約十五メートル、幹周は四、二メートルにも達します。一九五二年には群馬県指定天然記念物に登録されました。商都として繁栄した江戸期、鉄道開通と繭で栄えた明治期、十五連隊が置かれ軍都としての顔を持った大正・昭和期、その後の交通の拠点として発展した高崎の四百年を見守ってきました。